

皮膚科医たちの医療イノベーション

医療の最前線で活躍する3名の皮膚科医が〈エールホームクリニック長岡〉で、新しい医療の可能性を切り拓いています。どのような志で、どのような医療に取り組んでいるか、全4回にわたるインタビューを行います。第1回目の今回は、皮膚科医3名に普段の診察では知ることのできない、クリニックの特徴や医療に対する思いを伺いました。

第1章 マンパワーと機器を兼ね備えた強み



田中 真百合先生
(たなか まゆり)
皮膚科医師
●専門医・資格
皮膚科専門医
(日本皮膚科学会認定)
●好きな言葉
「自分らしく」

梅森 幸恵先生
(うめもり ゆきえ)
皮膚科医師
●専門医・資格
皮膚科専門医(日本皮膚科学会認定)
レーザー専門医(日本レーザー医学会認定)
がん治療認定医
(日本がん治療認定医機構認定)
●好きな言葉
「なるようになる」

松井 彰伸先生
(まつい あきのぶ)
皮膚科医師 / 医学博士
●専門医・資格
皮膚科専門医
(日本皮膚科学会認定)
●好きな言葉
「継続は力なり」

編：皮膚科で手術というと、どのような症状があるのでしょうか？

松井先生：はい。当院では手術室があるので、病状などにより手術も当日対応可能です。もし、医者のマンパワーが足りなければ手術の患者さんに付きっきりになってしまうので、他の患者さんをお待たせしてしまいますが、当院ではそのようなことがありません。

編：皮膚科で手術ですか？

松井先生：まずは3名というマンパワーがあるので、受診当日の手術に対応できる機会が増えました。

松井先生：悪性腫瘍など皮膚がんの手術、ほくろ除去、脂肪腫など様々です。手術に関しては的確な術前診断と評価が重要になります。

田中先生：その術前診断というと、当院にはCTやレントゲン、エコーなどの画像検査ができる設備が整っています。皮下腫瘍などは皮膚表面だけでは判断ができませんので、しっかりと検査をした上で判断をし、処置が可能です。

編：手術というと大きな病院で、時間がかかるイメージがあったので、このように迅速に対応していただけたらいいな、3人体制で設備も整っているからこそできることですね！

もっと広がる皮膚治療の選択肢

編：〈エールホームクリニック長岡〉では、美容皮膚科にて自由診療(治療にかかる料金を全額自分で払う自費診療)も受診可能ですが、保険診療との違いをお聞かせください。

梅森先生：まず前提として「自由診療か保険診療かは患者さんによる判断ではなく、医療者側が判断する」ということです。例えば「イボを取りたい」と相談があったら、イボを良性腫瘍と捉えて、切除して治療する方法は保険診療になります。美容的な目的でレーザーで削る方法は自由診療になります。このように、保険診療と自由診療のそれぞれのメリット、デメリットをお伝えして選択してもらいます。

編：自由診療といえど美容系、保険診療は健康に関わる部分というイメージでした

が、その点はいかがでしょうか。

梅森先生：おおまかに言えば仰る通り「日常生活に支障をきたすような病気を治療するときは保険診療」になりますが、そう単純ではなく「保険診療と自由診療の2つがあることで治療の幅が広がった」とお考えください。もちろん患者さんは、最初から美容皮膚科に来院され、自由診療を希望されて構いません。

編：美容皮膚科にはどんなお悩みを持つ方が多くいらっしゃいますか？

梅森先生：最も多いのはシミですね。ただ、これも実際シミかどうかの判断が重要です。患者さんがシミと誤っていてもイボやほくろ、腫瘍という病気が隠れている場合もあるので、しっかりと診察をしたうえで、どのような治療をするか判断します。その診察後、最もよい治療方法を提案させていただきます。

編：間口が広い分、気軽に相談して安心して治療を受けられそうですね。

通いやすいクリニックを目指して、患者さんへの思い

編：では、最後に先生方がそれぞれ「診療時に心がけていること」を教えてくださいませんか？

松井先生：小さなお子さんが、病院嫌いにならないような対応や診療を心がけています。

編：子どもは病院が好きの子っていないですね。具体的にどんな診療をされているのですか？

松井先生：小さいお子さんは病院に対して恐怖心を持っている子が多いので、できるだけ怖がらせないように気をつけています。ただ、小児皮膚科では尋常性疣贅(ウイルス性のイボ)のお子さんが多く、少なからず治療に痛みを伴います。そのためお話ししながら、慣れるまでは最低限の痛みで済ませようとしています。また、思春期の子は

なかなか自分の口で気になっているところを言えないこともあるので、できるだけ話しやすい雰囲気を作るようにしています。

編：ありがとうございます！田中先生はいかがでしょう？

田中先生：患者さんとの信頼関係の構築を大切にしています。

編：具体的にどんな対応をされるのですか？

田中先生：患者さんが医師に本音を伝えられるような心の距離感で接するよう心がけています。例えば、こちらが一方通行で正しい治療を伝えても、それが理解されなかったり、治療方法や医師に対して疑いの気持ちが残っていたりすると、自宅に戻った後に適切なセルフケアができないので、患者さんが疑問に思うことは聞いてもらえるような関係性でありたいと思っています。

編：治療される立場としては、なかなか本音で言いづらいので、そんな対応はとじていることを教えてください。

梅森先生：患者さんの変化を見逃さないような治療を心がけています。

編：それはどんな治療なのでしょう？

梅森先生：皮膚科の病気が、慢性的なものが多いんです。通っているのになかなか症状に改善や変化が見られないと、治療意欲がなくなります。患者さんの話を聞いて、症状を確認しほんのちよつとも治療に変化を加えるようにしています。患者さんとの会話はカルテに記録しているので、次回いらした際には、その変化を見逃さないよう治療方法を考えます。

編：確かに、いつも同じ治療だと少し不安になってしまいかも知れません。先生が私たち患者の様子を見てください、改善されるまでしっかりと通えそうです。

今回は皮膚科医の田中先生による単独インタビューを行います。

教えてドクター！

冬の乾燥によるお肌トラブルに悩んでいます。(40代 女性)



〈エールホームクリニック 長岡〉
皮膚科医師
梅森 幸恵
皮膚科専門医
レーザー専門医
がん治療認定医

A 肌が乾燥してくると、外からの刺激に敏感になり、かゆみが生じやすくなります。乾燥肌を改善するには保湿をしっかり行うことが大切です。保湿剤には皮膚の水分が逃げないようにふたをするエモリエントと、皮膚に潤いを与えるモイスチャライザーの2種類があります。エモリエントの代表的なものがワセリンで、モイスチャライザーにはヘパリン類似物質や尿素製剤があります。乾燥が強いときはモイスチャライザーを先に塗り、その後にエモリエントを重ね塗りすると効果的です。ティッシュが貼り付くくらいたっぷり塗ることがポイントです。

ここがポイント！

POINT 皮膚の水分が逃げないようにふたをする保湿剤と、皮膚に潤いを与える2種類の保湿剤を活用しよう！

インフルエンザ罹患後、咳がずっと続いて心配です。(30歳代 女性)



〈エールホームクリニック 長岡〉
院長 / 内科医師 / 医学博士
田村 真麻
総合内科専門医
リウマチ専門医・指導医
アレルギー専門医
日本リウマチ学会・登録ソノグラファー

A インフルエンザによる咳の症状は通常1-2週のうちに治まります。一度熱が下がった後に再度微熱が出たり、痰の絡んだ咳が増えてきた場合は、インフルエンザ後の細菌感染の可能性もあります。また、体は元気になったものの、咳症状が悪化し、夜寝る前や明け方に咳が多く出る、寝ていて咳で目が覚めるなどといった場合は、咳喘息の可能性もあります。それぞれ、抗菌薬治療や吸入治療が必要となりますので、咳症状が長引いた際は内科受診をご検討ください。

ここがポイント！

POINT なかなか症状が改善しない場合は、他の病気が合併している可能性があるため受診をお勧めします。